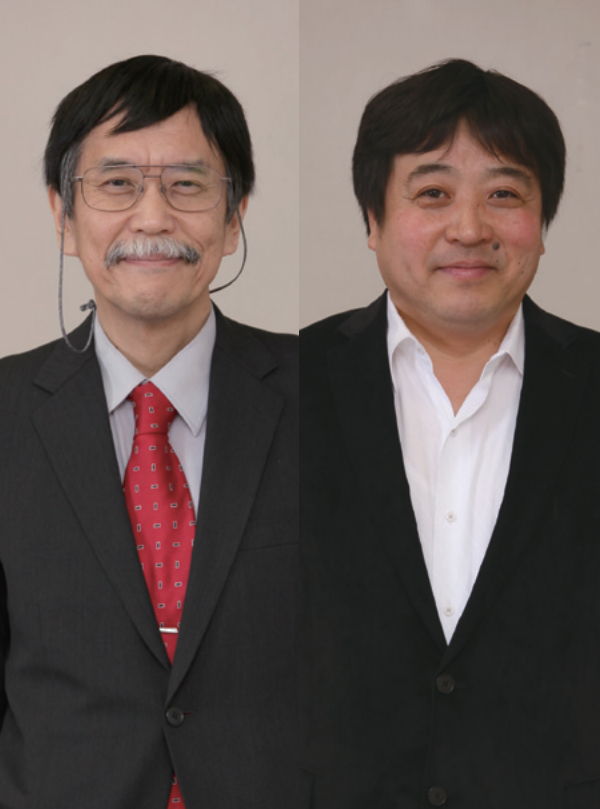




島根大学広報誌 広報しまだい

Shimadai

2014.4 vol.20



特集 ■ 地域の課題に、垣根を越えて取り組む 島根大学COC事業

古代出雲文化フォーラムⅡ

「古代出雲文化と現代の製鉄へつながる」たたらへのいざない



話題ゾクゾク、興味モリモリ。

島大

検索

古代出雲文化と現代の製鉄へつながる 「たたら」へのいざない



パネルディスカッション 古代出雲文化フォーラムⅡ

コーディネーター
島根大学大学院総合理工学研究科教授 大庭 卓也

パネリスト
日方 健太郎 村下 本藤 賢 氏
元 中国新聞編集局長 島津 邦弘 氏
元 比治山大学教授 作野 広和 氏
島根大学教育学部准教授

昨年の出雲大社の大遷宮を機に古代出雲文化への関心が高まる中、3月9日、『古代出雲文化フォーラムⅡ』古代出雲文化と現代の製鉄へつながる「たたら」へのいざない』を島根大学の主催で開催しました。

このフォーラムは、昨年の3月に東京有楽町で第一回目が開催されて盛況を博しており、今回は会場を広島に移しての続編となりました。



第一部 基調講演

「出雲神話の謎」

元島根県立島根女子短期大学 学長
藤岡 大拙 氏

第一部の最初となる藤岡氏の講演では、「出雲はとりわけ神々の国」という、ラフカディオ・オハーンの言葉の引用から始まり、①神社の数、②神話の数がともに多かったというその根拠が語られました。

その後の講演は「実際に出雲は栄えていたのか？」を検証する視点で進みました。津田左右吉による「出雲神話は大和朝廷が机上で作ったものである」という仮説や、梅原猛による「天皇家にまつるわぬ神々は、出雲へと押し込められた」という仮説の紹介。そして、それらにおいて導き出された「出雲神話は出雲発祥ではない」という位置づけに

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介	■しまだイトピックス	17
①医学部 内尾 祐司教授	■島根大学医学部附属病院「緩和ケア病棟」	19
②生物資源科学部 鈴木 美成准教授	■サークル紹介	21
■島根大学教育学部附属中学校	将棋部／水泳部	
「言葉」への関心を高める授業作り	■島根スサノオマジック紹介・島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント	22



1935年山口県生まれ。1986年、文部大臣より国選定保存技術保持者、玉鋼製造(たたら吹き)に認定。2006年、叙勲「旭日双光章」を受章。

「たたら製鉄の技と精神」

木原 明氏
 国選定保存技術保持者・
 日刀保たたら村下(むらげ)

「たたら」にちなむ専門分野の方々が一堂に会したパネルディスカッション。進行役の大庭教授から「産業文化への影響は?」「環境との調和は?」という問いかけに対し、4人のパネリストにお答えいただく形式で進めました。ここでは内容を要約してご紹介します。

パネルディスカッション

「たたら」にちなむ専門分野の方々が一堂に会したパネルディスカッション。進行役の大庭教授から「産業文化への影響は?」「環境との調和は?」という問いかけに対し、4人のパネリストにお答えいただく形式で進めました。ここでは内容を要約してご紹介します。



基調講演

「出雲神話の謎」

元 鳥根女子短期大学学長
藤岡 大樹氏



1932年鳥根県生まれ。京都大学大学院文学研究科修士課程修了。現在はNPO法人出雲学研究所理事長、荒神谷博物館館長などを務める。

はありませんでした。昭和59年の荒神谷遺跡からの驚異的な数の銅剣や翌昭和60年の銅鐸・銅矛の発掘、それに続く山陰地方の各所での多数の遺物や遺跡の発見が紹介され、弥生時代における出雲地域の繁栄ぶりがおける

推論されます。「出雲神話の様な壮大な神話が生まれるには、実際にその場所が先進的な地域として栄えていなければならぬ」という当初の理論を裏打ちするものとしての結論でした。講演の最後には、出雲神話に登場する「目一つの鬼」が製鉄にまつわる民であり、ひいてはそれがヤマタノオロチの神話へとつながっていくのではないかと、興味深い仮説も語られ、来場者の興味を引いていました。

日本では明治維新まで、鉄は「たたら」が全て。そこで産する玉鋼から刀や農具、日用品が作られていました。今でも日本刀や茶の湯釜等に使われ、最近では東大寺・金剛力士像の修復時に、鎌倉時代と同様にするため釘・銚かすがいに玉鋼を使用。昔も今も「たたら」は暮らしと文化を支えています。また、「たたら」によって育まれた歴史風土は、砂鉄を採る鉄

元中国新聞社編集局次長・元比治山大学教授 島津 邦弘氏
 「中国地方の文化とたたら製鉄」
 中国山地の歴史は、たたらに根ざす「3黒」つまり鉄、木炭、

2014.4 vol.20

Shimadai

島根大学広報誌
 広報しまだい

■古代出雲文化と現代の製鉄へつながる「たたら」へのいざない

「古代出雲文化フォーラムII」レポート

..... 1

■地域の課題に、垣根を越えて取り組む

島根大学COC事業

..... 5



1941年広島県生まれ。立命館大学卒業後、中国新聞社入社。解説委員、編集局次長を経て比治山大学教授に。中国山地関連の著書多数。

牛に集約できます。いま中国山地に広がっている過疎・高齢化の波は、明治以後の近代化の過程で「3黒」が失われたのが原因です。中国山地の今後を考える場合、これらの長い歴史に学ぶ必要があります。それには、身近な資源を生かし、節度をもって持続的に活用することが大事だと思います。

島根大学教育学部准教授
作野 広和氏

「地図で読み解く たたら製鉄の足跡」



1968年島根県生まれ。島根大学教育学部卒業、広島大学大学院文学研究科修了。島根県中山間地域研究センター客員研究員等を務める。

人文地理学という、地図をベースに事象を読み解く研究をしています。奥出雲では非常に狭隘きょうあいなところに集落があります。それはかつての炭焼きや鉄穴流しの

場であり、「たたら」との関わりが読めます。この鉄穴流しが地形を変えたことも地図で見れば明瞭で、その景観が新たな文化スポットとして注目を集めていることに、大きな期待をしています。

島根大学大学院総合理工学研究科 教授
大庭 卓也氏

「先端科学で 紐解くたたら」



1953年福岡県生まれ。広島大学大学院理学研究科博士後期課程修了。専門は回折結晶学、金属物性。2010年島根大学産学連携センター長兼任。

「たたら」は、鉄鉱石の産出が少ない日本独自の製鉄法。砂鉄という鉱物の中に酸化物として存在する鉄を還元して取り出しています。また日本刀は折り返し鍛錬と焼き入れにより炭素量を調節し、柔らかい鉄と硬い鉄により「折れず曲がらず」という特徴を作り出している。科学知識のない古の人が、こうしたことを経験的に知っていたのは、高い技術力を持った文化の証拠ではないでしょうか。

日本刀の疑問に、一問一刀！

刀匠 全日本刀匠会会長・日刀保たたら村下代行
三上 貞直氏

「世界に誇る 日本刀の技と魅力」

司会・石原美和氏の質問に

一問一答で刀のアレコレを解説。

——日本刀の魅力とは？

たたら製品の代表が日本刀。その魅力は、スタイル、強靭さ、研ぎ澄まされた鋼の美しさ、嗜好をこらした外装などです。

——刀の種類は？

刃渡りにより、短刀・脇差・太刀または刀に区別されます。太刀は刃を下に紐で下げて装着し

ます。室町時代、刃を上にと帯に差し、抜き打ち可能な刀が出現、主流となつていきます。

——見る際は、どこに着目すれば？

まず、形。時代によって長さや反りが変化します。戦闘スタイルが変わるからです。

——他に注目すべき点は？

美しい刃文です。刀を光にかざすと、刃先の白い部分と棟側の黒い部分の境目で波打つ刃取りの内側に、本当の刃文が浮き出て、様々な文様が現れます。

——黒い棟部分にも模様がある？

微妙なのでわかりにくいですが、肌と呼ばれるものです。刀を作る際に何度も折り返し鍛錬した痕跡ですから、作者の汗を感じながら見ていただきたいですね。



三上貞直氏作の日本刀。鋭い光を放つその美しさは、会場内でもひと際注目を集めた。



(左)石原美和氏。元TSKアナウンサーで、フォーラム全体の司会を務めた。
(右)三上貞直氏。1955年島根県生まれ。人間国宝・月山貞一刀匠に師事し作刀技術を修得。日本美術刀剣保存協会新作名刀展無鑑査。広島県無形文化財認定。

第二部は映画監督の錦織良成氏と小林祥泰学長による対談。古代からの「たたら」の技術は、いまだ世界トップと言われているが、錦織監督が現在撮影の準備を進めているのは、まさにそのたたらをテーマとした



「島根は日本の最先端」と語る錦織監督(左)と小林学長(右)

「たたら侍—TATARAI SAMURAI」。このテーマで撮影しようと思ったきっかけは、

「たたら侍—TATARAI SAMURAI」。このテーマで撮影しようと思ったきっかけは、

「たたら侍—TATARAI SAMURAI」。このテーマで撮影しようと思ったきっかけは、



1962年島根県出雲市生まれ。1996年「BUGS」で映画監督デビュー。何気ない日常をとらえる描写力と柔らかな映像センスに定評がある。

かされたそうです。

これには学長も同意見で、「わが島根大学でも、国の将来を考えた人材をいかに育成するかが今後の課題。地域文化の拠点として、日本文化のルーツとも言える古代出雲文化を発信し続け、後世に伝承できる人材を育成したい」と発言。

その後は、たたら語源は古代インドのサンスクリット語である「タラタラ(=熱いという意味)」ではないかと言われている話や、八百万(やおよろず)の神はインドから発想されているのでは、など、古代出雲文化への空想が膨らむ、

金管楽器による ブラスアンサンブル

「古代出雲文化フォーラムⅡ」の最後を締めくくったのは、島根大学教育学部 小坂達也講師による指揮、同

専攻金管楽器専科生による演奏。「もののけ姫のテーマ」など2曲を演奏し、音が伝わるロマンあふれるメッセー



次回開催予告

古代出雲文化フォーラムⅢ

● 2015年3月8日(日)

● 大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)

課題解決型教育によって地域協創型人材を養成する

島根大学COC事業

島根大学が取り組むCOC事業の概要

島根大学は、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、全学的な地域再生・活性化への取り組みをこれまで以上に強化していくことになりました。

具体的には、島根県が抱える産業空洞化、市街地空洞化、地域医療危機、過疎・高齢化等の様々な地域課題に対して、次の取り組みを実施していきます。

①全学部・研究科において学部を超えた「地域基盤型教育」と「地域課題解決型教育・研究」の強化。

②本学と連携する自治体、産業界、NPO法人等で構成する「しまねCOC事業推進協議会」、「市民支援ネットワーク」及び「学生ネットワーク」により、市民・学生の声を汲み上げながらの活動の推進。

③地域との協働で「課題解決型教育」を進めるための「地域課題学習支援センター」を新設し、学習支援システムとコンテンツの作成・配信。

「教育」「研究」「社会貢献」

COC事業において、大学としてなすべきことは、大きく「教育」「研究」「社会貢献」の三つです。

「教育」

「教育」では、地域を知り、地域に入り、地域とともに成長する地域協創型人材を養成することに重点を置きます。そのため、従来から実施している地域社会体験プログラム等の「地域基盤型教育」と地域医療実習や実践教育プロジェクト等の「地

域課題解決型教育」を基礎としながら、次の新しい試みにも取り組んでいきます。

●学部1・2年では、社会体験学習等の「ベースストーン科目」を選択必修とすることで、地域との触れ合いによる学習動機付けを強化

●学部3・4年では、地域関連の専門教育科目群を「キャップストーン科目」として副専攻化し、地域との連携により課題解決型専門学習を強化

●大学院では、共通科目として「専門的・学際的地域活性化副専攻プログラム」を導入し、地域との協働から課題解決能力を強化

●教育能力向上の実践的方法として前記教育・研究への取り組みを促進し、教員の地域志向の向上実現

●入学前から地域貢献を強く志向する受験生を受け入れる「地域貢献人材育成入試」を実施

協創型人材養成

文部科学省
地(知)の拠点

【目標】
し、学部を超えて育成する
性化マネジメント人材

性化副専攻プログラム
課題解決能力強化

ン科目
学際的地域活性化
副専攻
受講 0% → 20%

ン科目
から学習動機付け強化

入試 50名

エンrollment・
マネジメントシステム
入学前・在学・卒後を通した継続的支援

地(知)を知るFD
教育・研究・社会貢献融合

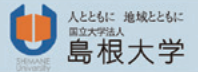
推進活動

市民支援
ネットワーク
(会費制)

学生
ネットワーク

島根大学COC実施本部
(学長補佐:市民、学生)
しまねCOC事業推進協議会

推進組織



「研究」では、地域課題解決に繋がるプロジェクト研究を強化するために開設したプロジェクトセンターを中心に、地域との協働で地域課題の解決に密着した研究を行うとともに、そこに学生が参加することで課題解決型の教育も実施します(7ページ参照)。

「社会貢献」では、地域課題解決型教育・研究を通じて、地域とともに活動し、地域から学ぶ社会貢献を進めるため、次の取り組みを実施します。

- 地域活性化や中心市街地活性化等に関する学生の社会貢献活動を積極的に推進
- 地域の生涯学習に貢献するた



「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」とは?
文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることにより、地域コミュニティの中核的存在(COC=Center Of Community)として機能強化を図り、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目的とするものです。
平成25年度には319件の申請があり、そのうち島根大学を含む52件が採択されています。

め「地域学習支援ITシステム」を構築し、地域活性化に資する地域指向のコンテンツを作成・オンラインで配信

- 学生・社会人の入学前・在学・卒業を通じた継続的支援を行うための「エンロールメント・マネジメントシステム」を構築
- 地域の課題解決に迅速に取り組むため、地域課題を速やかに社会貢献に繋げる機能を構築

このように、地域とともに活動し学ぶことで、より実践的な地域協創型人材の育成につながっていくことも期待できます。

島根大学の使命は「地域に根ざし、地域を活性化する人材養成」であり、今回採択された平成25年度文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、まさにその目的の達成を支援するものです。

本事業では、地元自治体や企業等と連携し、島根県が抱える様々な地域課題についてソーシャルラーニングを含む実践的教育を通じて問題解決型教育を推進し、多くの分野で地域活性化マネジメントや研究ができ、かつグローバルな感性を持った人材養成を行いたいと思っています。



地域の課題について活発な意見交換も COC事業キックオフセミナー開催

平成25年12月16日松江市のく
にびきメッセにおいて、文部科学
省「地（知）の拠点整備事業（大
学COC事業）」に採択された
「課題解決型教育（PBL）」によ
る地域協創型人材養成」のキック
オフセミナーを開催しました。

セミナーでは、小林学長の挨拶、島根県知事の挨拶、竹内理事からのCOC事業概要説明に続き、株式会社インテカー代表取締役社長齋藤ウイリアム浩幸氏による「地域イノベーションに対応した人材の育成について」と題した記念講演がありました。

つづいて、本事業において地域との協働により実施する課題解決型研究・教育の中心となる



キックオフセミナーの様子



基調講演を行う齋藤ウイリアム浩幸氏

「Ruby・OSS」「ウッド・デザイン」「くにびきジオパーク」「疾病予知予防」「ナノテク」「自然災害軽減」「農林水産業の六次産業化」「水産資源管理」の8つのプロジェクトセンターから活動紹介があり、最後に塩飽理事の挨拶で閉会しました。

当日は、本学教職員、学生、自治体関係者、企業関係者、一般市民の方々等約200名の参加があり、活発な意見交換が行われました。



各プロジェクトセンターの発表

自治体の政策課題に連携して取り組む 各プロジェクトセンターの活動

島根大学では、プロジェクトセンターを中心に、連携する自治体等と次のような事業を協働で推進する予定にしています。これらの取り組みにかかる個別の連携

事業については、自治体等との間に委員会を設けマッチングをはかりながら平成26年度以降実施していきます。

Ruby・OSS	世界的にも注目されているOSSのプログラミング言語Rubyを中核とし、自治体の政策課題でもあるソフト系IT 産業の振興、新産業・新事業の創出、産業人材の育成に取り組む
ウッド・デザイン	リノベーションした建築物のネットワーク化に向けて、サイン計画やソフト事業による「まち興し」を展開することにより、自治体の政策課題でもある地域コミュニティの維持・再生、居住環境づくり等に取り組む
くにびきジオパーク	山陰・島根地域の日本ジオパーク及び世界ジオパーク登録のための学術的支援を継続し、多様な自然の保全、自然とのふれあいを推進するとともに、自治体の政策課題である地域資源を活用した観光地づくりの推進、情報発信等誘客宣伝活動の強化に取り組む
疾病予知予防	疾病予知予防について、学生が地域に入って健康調査の立案、実施に参画できる環境を構築し、自治体の政策課題である健康づくりと福祉の充実について、住民講演会、セミナー、行政職員の研修に取り組む
ナノテク	島根大学独自のナノテクノロジーを基に、地域の産学官連携や全学的な医理工農連携を進展させ、自治体の政策課題であるものづくり、新産業・新技術の創出等地域の産業振興や医療技術の向上に取り組むと同時に、地域に根差した伝統的な技術の一つであるたたら製鉄の科学的解析により得られた知見を地元企業に還元することによる、ものづくり、産業の振興に取り組む
自然災害軽減	山陰地域における過去の地震・津波・火山災害、気象・洪水災害、斜面・地盤災害等のデータベースを作成し、それらの地域特性を解明して効果的な防災・減災方法を検討することにより、自治体の政策課題である災害に強い県土づくりに取り組むと同時に、教育委員会などへの防災教育の協力、山陰防災フォーラムを通じた地域の防災・減災対策に取り組む
農林水産業の六次産業化	地域の特色を活かした付加価値の高い農林水産品・加工品づくりの研究開発を進めることにより、自治体の政策課題である売れる農林水産品・加工品づくり、特産品開発等に取り組む
水産資源管理	汽水域の環境保全、宍道湖シジミの再生など、自治体の政策課題である農林水産業の振興、自然環境、文化・歴史の保全と活用等について連携するとともに、水産教育を推進し、水産資源を管理する人材育成に取り組む

COCプロジェクトセンター最新トピックス

「島根県の農林水産業六次産業化フェア」開催 農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター



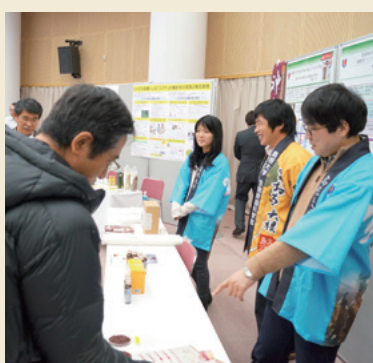
平成26年2月1日(土)に、くにびきメッセにおいて「島根県の農林水産業六次産業化フェア」を開催しました。このフェアは、島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンターが主催となり、島根大学サイエンスカフェ、中国四国農林水産・食品先進技術研究会(中国四国アグリテック)の共催で行われたものです。

生物資源科学部の江角智也准教授と医学部橋本道男准教授がそれぞれ講演を行ったほか、展示ブースでは島根大学が関わる六次産業化関連商品として、島根大学芋焼酎「神在の里」や西条柿飲料「晩夕飲力」、エゴマ関連商品、仁多水(ミネラルウォーター)等の展示が行われ、

シャインマスカットで作られたワインや、出雲おろち大根で作られたスイーツの試作品も提供されました。

当日は、農林水産業や加工業、流通業を含めた産学官の関係者約100名が集まり積極的な意見交換が行われ、六次産業化に注目が集まっていることが感じられました。

六次産業化プロジェクトセンターでは、これらの取り組みを通して、地域の特色を活かした付加価値の高い農林水産品・加工品づくりの研究開発を進めるとともに、自治体の政策課題である売れる農林水産品・加工品づくり、特産品開発等に取り組みで行きます。



「くにびきジオパークプロジェクト」 シンポジウム開催

くにびきジオパークプロジェクトセンター

平成26年3月1日に、松江テルサにおいて「くにびきジオパークプロジェクトシンポジウム」を開催しました。「出雲地域にジオパークを」と題した本シンポジウムは、くにびきジオパークプロジェクトセンターが主催し、自治体からは島根県、松江市、出雲市、奥出雲町から後援をいただきました。

当日は、国土交通省出雲河川事務所長の館健一郎氏の基調講演のほか、平成25年度の活動報告や他の先進地の取り組みの紹介などが行われ、活発な意見交換が交わされました。



くにびきジオパークプロジェクトセンターは、出雲及び近隣の



教育学部教授、林 正久による活動報告

地質学的資源・歴史・文化的資源を有機的に連結させる学際的人材育成を行い、断片化した地域資源のネットワーク化を図ることで、地域発信情報を一層充実させ、地域の文化的・経済的活動の活性化に寄与するとともに、自治体の政策課題である地域資源を活用した観光地づくりの推進、情報発信等誘客宣伝活動の強化にも取り組んでいきます。

今後、各自治体、公共施設、NPO法人等との連携の基に推進協議会を組織し、くにびきジオパークの日本及び世界ジオパークネットワークへの登録を目指してまいります。

開かれたソフトウェアを地域資源に Ruby・OSSプロジェクトセンター

近年注目を集めるプログラミング言語、Ruby

島根大学COC事業のプロジェクトセンターの一つである「Ruby・OSSプロジェクトセンター」。このプロジェクトセンターは、OSSの開発スタイルの総合研究と教育・人材育成への応用の研究を行っています。

「OSS」とは(Open Source Software)の略で、そのソース

コードも含めてコピー・修正・再配布するための権利が許可されたソフトウェアのこと。世界中の誰もが中身に触れることができるため、それぞれのアイデアや技術が持ち寄られて改良・進化を続ける可能性を持つソフトウェアと言えます。

「Ruby」もOSSの一つで、



RubyWorld Conferenceの様子。世界中から1,000人を超えるエンジニア、経営者、研究者が松江に集まった。

Javaによるフィボナッチ数計算プログラム

```
class Sample{
  private static int fib(int n){
    if (n<2){
      return n;
    }
    else {
      fib (n-2) + fib (n-1);
    }
  }
  public static void main (String[] argv) {
    System.out.println ("fib (6) = "+fib (6));
  }
}
```

Rubyによるフィボナッチ数計算プログラム

```
def fib (n)
  if n<2
    n
  else
    fib (n-2) +fib(n-1)
  end
end
print "fib(6)= ", fib(6), " n"
```

フィボナッチ数=どの項もその前の2つの項の和となっている数列。0,1,1,2,3,5,8,13,21,34,...

Rubyによるプログラムの記述。Javaに比べて少ない行数でプログラムが組める。

学部横断的 プロジェクト としてスタート

受け、近年ではWeb分野で使い勝手の良いプログラミング言語として注目を集めています。実際に、有名な多数のWebサイトや自治体のシステムが、このRubyを用いて構築されている実績もあります。

インベーターに仕事をさせるプログラムを組むためのプログラミング言語です。平成7年に松江市在住のエンジニア、まつもとゆきひろ氏によって公開されたRubyは、世界中の多くのプログラマやエンジニアの手によって改良・進化を

Rubyを中核としたOSSの総合研究を行う学部横断的なプロジェクトがスタートしたのは平成20年。これまでに、Ruby・OSSに関して情報工学や社会科学の分野で様々な研究を行ってきました。単に開発を支援するだけでなく、産学連携での新たなツールの開発やOSSによる経営戦略の研究、国際的な共同研究体制の構築等も実際に成果として上がっています。そういった実績もあり、COC事業への応募を契機に新たにプロジェクトセンターの一つとして設立されたのがRuby・OSSプロジェクトセンターです。

COC事業として今後の目標

プロジェクトセンターとしての今後の目標は、大きく分けて「Ruby・OSSによる産官学協同での新たなシステム、アプリケーションの開発」「生産性、経済波及効果の実証」「開発を通じた教育、人材育成」です。

島根大学のCOC事業として特に力を入れている人材育成の面に関しては、既にRubyを使ったプログラミングの講義も理系の学生に対して行っており、Rubyを使った新たなプロダクトを生み出せる人材の輩出が期待されることです。また文系の学生に対しては、経済・経営を学ぶ上でITに関するスキルも不可欠であることから、今後プロジェクトセンターとしてサポート体制を充実させていく予定です。



Rubyによるプログラミングの講義

さらに「地域情報や生活情報の見える化」として、疾病予知予防プロジェクトセンターが蓄積した疾病情報や救急搬送に関わる情報等のデータをマッピングするサイトをRubyで構築するなど、他のCOCプロジェクトセンターとの連携も進んでいます。

松江発のプロダクトを！

Ruby・OSSプロジェクトセンター長
法文学部教授 野田 哲夫



オープンソース・ソフトウェアに関わる経済的利点は、大きな産業構造を持たない地方都市であっても、離れた地域同士で補い合って成長できること。この点

は、松江の様な都市にとっては大きなメリットです。実際、島根県では産官学の連携もあり、IT企業の売上高や就業者数が平均して高い伸び率であるというデータもあります。

Rubyが生まれたのはここ松江。しかし残念ながら、今現在普及しているRubyを利用して開発されたソフトウェアは、他の地域で開発されたものが多いのが現状です。今後は、松江からRubyを使った新しいプロダクトが出てくるように力を注いでいきたいと思えます。

Rubyプログラミングコンテストを開催

島根大学では、地域資源であり、大学でも教育・研究に位置付けているRubyを活用した、学生・若手エンジニアによるアプリケーション開発のコンテストを開催します。

対象は学生（大学生・大学院生・高専生）と25歳以下の若手エンジニア。

Rubyプログラミング言語で

作成した、市民生活の利便性向上や新産業創出・経済活性化につながるオリジナルなプログラムを募集し、対象となる層にRubyへ関心を持ってもらうことを目的としています。

また、島根大学におけるRuby・OSSの教育研究活性化や情報発信力の強化といった効果も期待されます。

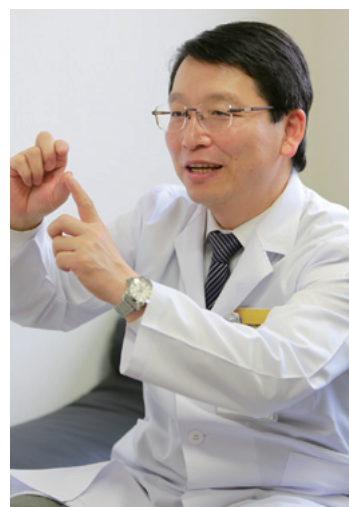
一人の臨床医である以上 実際の患者さんに 役立つ研究をしていきたい

スポーツ選手において深刻な問題である膝関節の障害。この障害の診断や治療法の確立について研究を続ける内尾教授に話を伺いました。

医学部医学科整形外科学講座 教授

うちお ゆうじ
内尾 祐司

医師として、今ある技術だけで満足してはいけない。常にアンテナを張り、医学上の疑問や課題を克服しようとする探究心を、若い医師には持ち続けて欲しいですね。



骨ネジを使った 新しい骨折治療法

患者さん自身のすねの骨の一部を取り出し、それを手術室の中で短時間でネジに加工。その骨ネジで折れた骨をつなぐ。そんな画期的な治療法を開発し、実用化を目指しているのが内尾教授を中心とする研究チーム。その成果は、島根大学医学部整形外科学と総合理工学部材料プロセス工学科（現、建築・生産設計工学科）の「医工連携」の成功例として注目を浴びている。

従来の骨折治療では、折れた骨をつなぐのに金属製のネジや生体吸収性素材が用いられてきた。しかし、金属製ネジは治療後に取り除くための再手術が必要であり、また生体吸収性素材は場合により異物反応が起こるといった問題がある。そういったネガティブな要素を克服するべく開

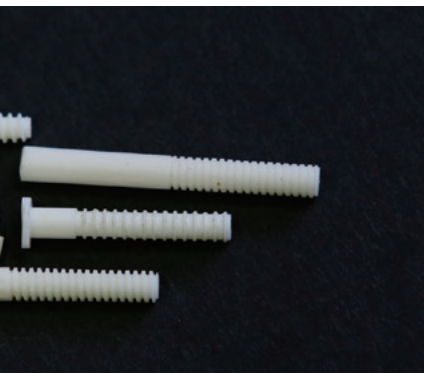
発されたのが骨ネジを使った治療法。骨で骨をつなぐことで異物反応は回避され、しかも時間の経過とともに骨同士が同化する。とで、より強固な固定が実現される。手術は一回で済み、患者さんへの負担も少ない利点の多い治療法と言える。

しかし、実現までには多くのハードルが並んだ。衛生管理が厳しく手狭な手術室で正確に骨を加工できる装置、ネジの形・強度、実際の経過等々。これら課題を一つ一つ実験を重ねながらクリアしていく長い道のり。そして最終的に行われた臨床手術で予想通りの治療効果を見せたこの研究は、『イノベーションジャパン2005』医療福祉部門でUBSSスペシャルアワードを受賞した。

患者のための研究 もっとしかなない研究

内尾教授は整形外科学、中でも膝関節のスポーツ外傷や障害を専門とする。最初は脳外科志望だった内尾教授が整形外科の道に進んだのは、「臨床実習中

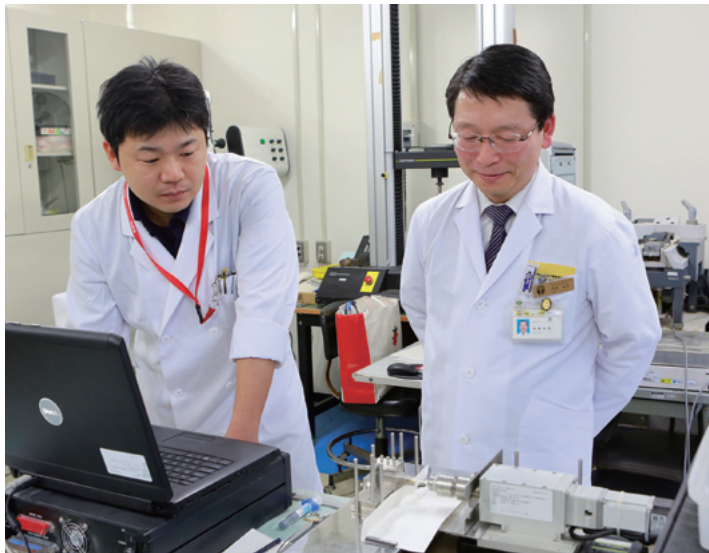
に、「動ける幸せ」を実感しながら退院する患者さんの笑顔にやりがいを感じた」（内尾）から。臨床医として年間200例ほどの手術をこなす内尾教授は、日々



験用の骨ネジ。溝の角度も様々な応力試験



ているところ。手術室で使われる加工装置とは



「学生には知識や技術のみではなく、医師としての倫理観を伝えたい」(内尾)。

従来の骨折治療法と新骨折治療法の比較

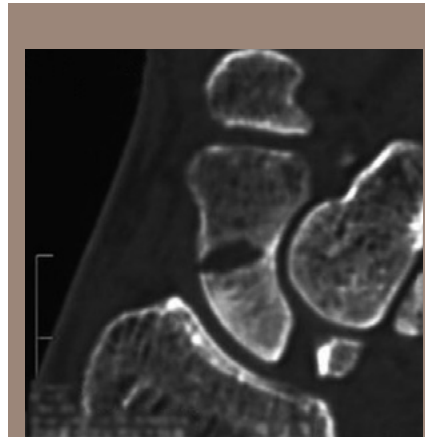
	従来の骨折治療法		新骨折治療法
	金属	生体吸収性素材	患者自身の骨
ネジ素材	金属	生体吸収性素材	患者自身の骨
強度	強い	弱い	強い(手術後強度増加)
ネジ抜き取りの再手術	あり	なし (吸収されるが骨には置換せず)	なし(生きた骨に置換)
異物反応(拒絶反応)	あり	あり	なし
その他			医療費抑制につながる (再手術・材料費不要)

注目キーワード

関節軟骨は神経や血管がない組織で、一度壊れると自己修復が
できないと言われる。したがって、関節軟骨の障害に対する治療法
を確立することは臨床的に重要な課題であり、何より障害を受け
た患者さんにとって極めて切実なことだ。

1994年にスウェーデンで研究が始まった培養軟骨は、軟骨細胞
を軟骨から分離して研究室で培養し、再び患者さんの関節に戻す
再生医療の一つ。島根大学医学部では、越智光夫前教授の考案に
より、これをさらに進めて、実際の軟骨組織にまで培養したものを
成形して患部に移植する培養軟骨移植術を1996年に日本で初
めて行った。以降、66例の臨床実績を積み重ねた後、多施設間で有
効性と安全性が確認されたことにより、2013年には保険収載さ
れて、現在は標準治療に至っている。

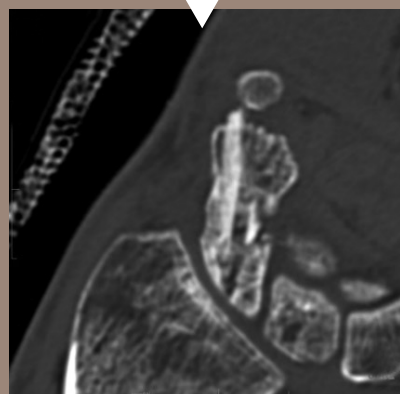
期待の再生医療——培養軟骨移植術



偽関節に対する骨接合術。



牛の骨を削って作られた実
を経て決められている。



骨ネジの手術後3ヵ月。



実験用の骨ネジを削り出し
異なるが、仕組みは同じ。



術後6ヵ月で完全治癒。

接する患者さんの診断や治療を
通じて、より有効で負担の少ない
治療法を常に探求している。「私
がやっているのは臨床研究ですか
ら、今現在苦しんでいる患者さ

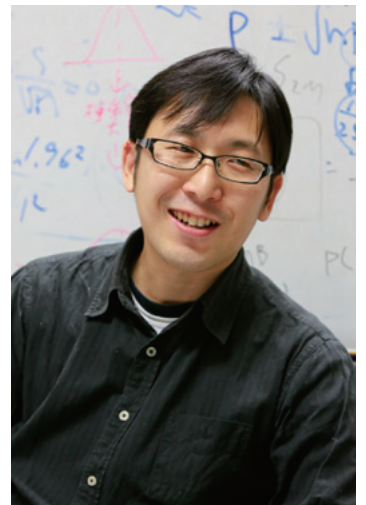
んのためになることが一番大事」
(内尾)との考え方が先述の骨ネ
ジによる骨折治療法や、培養軟
骨を使った移植術といった研究へ
の原動力でもある。

出雲大社に祀られるオオクニヌ
シノオオカミは、縁結びと同時に
医薬の神様でもあり、このため島
根県は古くから医療発祥の地と
言われる。この島根の地で「独自
のアイデアで生み出す、ここにし
かないオリジナルな研究」を通じ
て患者さんの役に立ち、それが
日本や世界に発信されることで
地域にも貢献する。それが内尾
教授の目指す研究のあり方だ。

PM_{2.5}中重金属のリアルタイム測定に成功 確固とした分析技術の習得が 人材・企業・地域を潤す

ここ数年、よく耳にするようになった「PM_{2.5}」。その分析を通して考えられる、新しい形の地域貢献について伺いました。

生物資源科学部 地域環境科学科 准教授
鈴木 美成



「金属」は、公害病や環境汚染の原因物質という負のイメージがある一方で、身体に必要といわれる「ミネラル」のようなものもあります。私にとってその二面性が大変魅力的で、金属の研究への興味がつきません。

PM_{2.5}の発生の原因は？
その成分をリアルタイムで測定する技術を開発

「メタロミクス」という聞き慣れない言葉。これが鈴木准教授の研究分野である。「ものすごく簡単に言うと、金属の研究になります。研究対象は様々で、河川や土壌などの環境試料から、野生動物や培養細胞まで幅広く扱います」（鈴木）。中でも現在重点的に取り組んでいるのが、PM_{2.5}を対象にした環境試料の研究である。

PM_{2.5}というと、大陸から飛来する大気汚染物質という漠然としたイメージを持つ人も多いのではないだろうか。でも実は、その成分は一つではない（左記「注目キーワード」参照）。島根大学に赴任してきた時、東京より島根のの方がPM_{2.5}に対して敏感になっていると感じた鈴木准教授。「PM_{2.5}への関心が高い島根県だからこそ、やりがいのある研究です」（鈴木）。

PM_{2.5}の分析は、その測定方法が重要となる。山陰地方の大学等が最新の研究成果を発表する「山陰発技術シーズ発表会inとっとり2013」において、鈴木准教授は昨秋「PM_{2.5}等の大気中粒子状物質に含まれる重金属等のリアルタイム測定技術」について発表した。

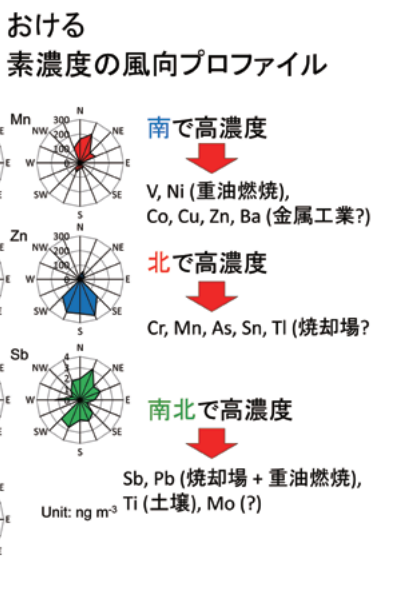
従来、PM_{2.5}の成分分析を行なうためには、フィルターに数時間から1カ月かけて捕集する必要があった。しかもこの方法だと、成分は判明しても、いつ、どこから飛来してきたものか特定するのは非常に困難となる。対して鈴木准教授が発表したのは、PM_{2.5}を直接分析装置に導入し測定する方法で、起源を分けるのも可能。大気環境をリアルタイムで評価したり、PM_{2.5}の排出源を特定し、人に注意を呼びかけることも可能となる。

優れた人材を育成することで
地域に、そして大学に貢献できる研究室に

鈴木准教授は現在、PM_{2.5}のリアルタイム測定技術を活用しつつ、島根県と協力して大気

汚染の研究に取り組んでいる。さらに研究体制を整え、今後は山陰地方におけるPM_{2.5}の研

技術



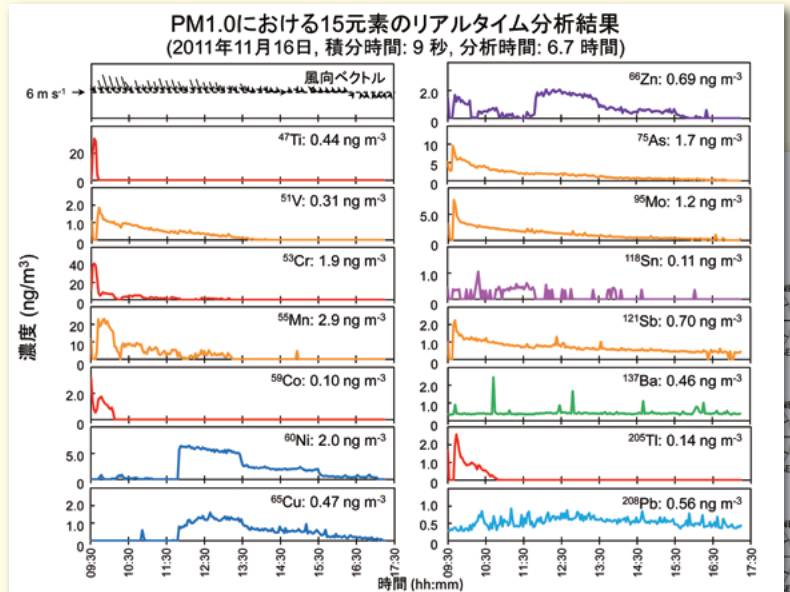


企業から高い注目を集めた、「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり2013」での発表の様子。

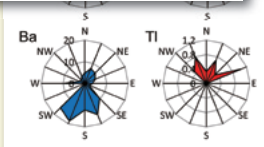


PM_{2.5}の分析システム。10ミリ秒から5分ごとの測定が可能に。

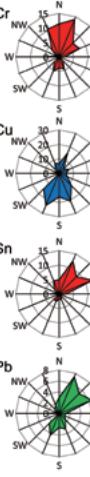
PM_{2.5}等のリアルタイム測定



PM_{2.5}を直接分析装置に導入し測定。元素と風向きを分析することで、どの元素がどこから飛来してきたか判別し、その発生源を特定することができる。



PM_{1.0}に微量元



注目キーワード

大気中の全浮遊状粒子状物質のうち、粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下の粒子状物質のことを「PM_{2.5}」と呼ぶ(正確な定義は粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以上の粒子のうち粒径 $2.5\mu\text{m}$ で50%カットした粒子状物質のこと)。つまり、PM_{2.5}は単一の化学物質のことを指すのではなく、その成分については空気中のさまざまな粒子状物質が含まれることになる。PM_{2.5}の発生源は多岐に渡り、自動車等の排出ガスや工場・事業場のばい煙などのようなものから、排出ガスや石油からの揮発成分が大気中で光化学反応を起こして粒子化したもの(光化学スモッグなど)まで実にさまざま。中でも大気汚染物質は健康に影響を及ぼすため、髪の毛の太さの30分の1程度と非常に小さいPM_{2.5}の濃度が高くなることで、呼吸系や循環器系への影響が心配される。

知っているようできちんと知らない「PM_{2.5}」とは?

究を進める予定だ。

そのためには、人材の育成も重要なポイント。島根には今現在、鈴木准教授の他に大気研究者が少ないというのが現状だ。「環境分野はまだ若い学問で、様々な学問が複雑に絡んでいます。そのため、学生たちには多分野にまたがる講義を通して、自分なりの環境科学を再構築してほしい」と考えています(鈴木)。

また、環境問題に関する研究を取り扱うことは、ともすれば企業を敵に回しかねない。だからこそ「学生には、企業を批判するためではなく、正しく評価するために幅広い分析技術を身につけてほしい」と鈴木は語る。

「優れた分析技術と研究を推進することで、大学、企業、そして地域が潤う理想的な環境が生まれる。そんな、互いにWin-winな関係を築ける研究室にするのが、私の理想です」(鈴木)。

「二元分析の技術は、企業における製品の品質や安全性の評価に生かされると想定され、化学メーカーや鉄鋼系メーカーからのニーズにも充分対応できると考えられる。そして、優秀な人材を社会に輩出すれば、大学にも優秀な学生が集まってくる。」

「優れた分析技術と研究を推進することで、大学、企業、そして地域が潤う理想的な環境が生まれる。そんな、互いにWin-winな関係を築ける研究室にするのが、私の理想です」(鈴木)。

つけ、就職への強力な武器にしてもらいたい」(鈴木)と語る。

「言葉」への関心を高める授業作りをめざして

「意外性」のある学習活動への模索

島根大学教育学部附属中学校では、教育に関するさまざまな取り組みが行なわれています。今回は、国語科の永野信吾教諭の取り組まれた、独創性に富んだ研究についてご紹介します。



国語の授業風景

タブレットから流れるリズムに合わせて「動詞、形容詞、形容動詞、名詞」と品詞の名前を連呼するのは、永野信吾教諭と生徒たち。徐々に早くなるリズムに合わせて、生徒たちは皆楽しそうに、でも必死で復唱する。永野教諭の授業は、「楽しみながら勉強できる」と生徒たちから大人気。その永野教諭が3年前から取り組んでいる「言葉への関心を高める授業作り」について伺いました。

まずは「読むこと」で自分の成長を実感

まず最初の取り組みは、教科書でもなじみ深い菊池寛の「形」や太宰治の「走れメロス」といった作品。文章構成や表現の工夫、作者の意図などに注目して読み、感想を書いてみることからスタート。

「これを二度繰り返し、感想を読み比べてみると、作品に対する見方が広がっていることに気付けます。つまり、生徒が自らの作品のとらえ方に自信を持つことができるのではないかと考えています」(永野)



永野教諭

また、新美南吉の「ごん狐」 「手袋を買いに」「牛をつないだ椿の木」の3作品の読み比べは、自らの成長を実感しやすいと生徒からも好評だ。

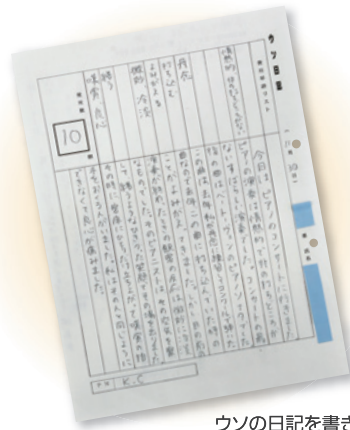
「昔読んだことのある絵本などを題材にすると、誰もが親しみのある作品だけに、批評文の内容に自らの成長を実感しやすいようです」(永野)。

「書くこと」を通して 語彙力も高める

次に永野教諭が取り組んだのが「書くこと」の実践だ。文章を書くことに抵抗感を持つ生徒が多い中、どうすれば書く能力を高められるのか考えたとき、「繰り返し行なうこと、そして語彙力を高めることが必要だと思いました。そこで実践したのが『ウソ日記』です」(永野)。

これは、ある特定の言葉の意味を調べ、その言葉を使って自由に物語をつくるというもの。自らが言葉の意味を調べることで理解が高まり、さらにその言葉を文中で使用することで、生き

た活用方法が分かるようになる。また、内容がウソでいいので自由に書きやすいという利点も。「ウソ日記を読み合うことで、文章のアイデアが浮かぶようになり、スムーズに書けるようになる。また、友人の作品を評価するために、集中して文章を読む能力も身に付くと考えられます」(永野)。



ウソの日記を書き、読むことで書く力がアップ。

最後は「対話力」 コミュニケーション能力の向上をめざす

最近の中学生の国語能力について「テストでは力があるが、実生活の中での会話力はまだこれから」と語る永野教諭。中学生はまだ「学校」という狭い世界の中で生活しており、異年齢の方と会話する機会自体が少ないため、相手に合わせた話し方や話

題に配慮する力を身に付けるのはまだこれから、と語る。

「平成26年度の附属小・中学校の国語科の取り組みとして『話す・聞く』に特に力を入れていく予定です。中学生が自らの考えを積極的に発信できるように工夫を重ねたいです」(永野)。

永野先生の授業の魅力は？ 中学生にインタビュー

ユニークな方法で 暗記が楽しくなりました

先生はいつもはやさしいけれど、叱る時にはきちんと叱ってください、メリハリのある人。

授業も、リズムにのせて品詞を覚えたりと大変ユニークで、暗記が苦手だった私も楽しく覚えられます。そのおかげで、授業中に発表できる回数も増えました。

これからも楽しく勉強しながら国語力をアップしていきたいです。



西村 ふうあさん(1年生)

何でも気軽に相談できる 頼れる先生

先生の教え方は丁寧で、とても分かりやすいです。それでも分からない時に便利なのが「だんだん」という生活ノート。授業での不明点や、面と向かって聞きにくい相談がある時は、そこに書きこんでおくと、先生からの返事がいただけるので、気軽に質問しやすいです。

先生の色々な工夫のおかげで、前より国語が好きになりました。



正岡 奏汰さん(1年生)

会話力、そして国語力に 自信ができました

先生が教えてくださる暗記方法は本当に楽しくて簡単。百人一首も、先生考案の特製プリントのおかげで、覚えやすかったです。

また、グループの中で自分の意見を述べるような授業も多く、人前での発表に自信を持てるようになりました。これも1年間勉強してきて、国語力が身に付いてきたおかげだと思います。

先生は正直、国語が得意ではありませんが、先生の授業には色々な工夫がされており、楽しく学べます。特に漢字が自然と覚えられる、オリジナルの「特製シート」はテスト前の勉強の必需品です。

先生の「特製シート」で 苦手の漢字を克服！

「国語」は普段使っている日本語のはずなのに、まだまだ勉強するところがいっぱい。先生の授業でもっと知識を身につけたいです。

先生の授業でもっと知識を身につけたいです。



濱崎 諒さん(1年生)



宮本 レオ二さん(1年生)

※記載の学年は取材当時のものです。



しまだいたい

島大の多彩な動きを
チョイスしてお伝えします!!

トピックス

掲載記事以外にも、島大には話題がいっぱい!
ぜひ、ホームページもご覧ください。

島大 検索

英語で「白熱した」議論に挑戦

第1回 島根大学英語
白熱教室を開催

12月21日、名古屋女子大学のダグラス・ジャレル教授をお招きし、「第1回島根大学英語白熱教室」を開催しました。

「日本のエネルギー問題を考える」という少し難しいトピックでしたが、ジャレル教授の問題提起、学生グループのプレゼンテーションの後、約50名近くの学生や教員、小林学長も参加し、英語で議論に挑みました。

2時間以上の英語リスニングトレーニングになったばかりでなく「英語で自分の意見を伝える心地よさ」「自分の考えになかなか英語がついてこないもどかしさ」を経験でき、英語課外活動として有意義なイベントとなりました。

学生の就職活動を強力サポート

島根大学合同会社説明会
2015を開催

1月13日、くにびきメッセにおいて、2015年3月卒業・修了生を対象とした「島根大学合同会社説明会2015」を開催し、県内外から163社の企業にご参加いただきました。

参加した学生は各ブースで熱心に採用担当者の説明に耳を傾

け、今後の採用選考に備え、積極的な姿勢が見受けられました。



エチオピアの医療の発展を支援

協定校アワサ大学(エチオピア)
産婦人科医師が、学長を表敬訪問

2月5日、本学の協定校であるアワサ大学(エチオピア)のエンデルサイセイメンゼシヤ産婦人科医師と、医師招聘のために寄附支援いただいた佐田診療所の土谷治久院長が小林学長を表敬訪問。

サイセイメンゼシヤ医師から「島根大学で学んだことを、本国で実践していきたいです」と感謝の挨拶がありました。



島根大学には色々な教授がいらっしゃるんだなと思いました。また紹介してください。(島根県大田市・Tさん)

大学関係のイベントなどをもっと広くPRして、地域の人に参加してもらった方がいいと思います。(島根県松江市・Yさん)

島大生の地域貢献、ボランティア活動、地域づくりの研究に期待しています。(島根県飯石郡・Mさん)

「学生自らが、母校の後輩たちに島根大学の魅力をアピール」

「平成25年度 島根大学学生による出身高校訪問」を実施

島根大学の学生が出身高校へ出向き、高校生に島根大学について具体的な話をしたり、高校の先生に近況報告等をする事業「出身高等学校訪問」を今年度から始めました。これは、高校への情報提供とともに学生自身のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

今年度は5学部から18名の学生が県内外の高校13校を訪問。母校で話をするにあたって工夫した点や、得られた成果について学生が共有し、この活動の意義や今後の課題等について学内教職員に知ってもらうために、両キャンパスにて報告会を開催しました。

■松江キャンパス報告会 11月14日開催

約30名の教職員に対し、教育学部・総合理工学部・生物資源科学部から7名の学生が、自らの活動について発表。



総合理工学部4年の多武豊さん(愛知県立豊田南高等学校出身)は「小難しい話よりも、学生生活の実体験や楽しかったことを伝えた方が反応が良かった。事前に高校の先生とよく打合せをして、高校生が知っていたことを調査しておくべき」と発表。また教育学部2年の内田真由さん(松江市立女子高等学校出身)は「実際の大学生活について

て写真を用いて説明したら、高校生にも楽しんでもらえたようだ。高校の先生方にもおもしろいプレゼンだったと言っていた。自分にとっても貴重な経験となった」と感想を述べました。

■出雲キャンパス報告会 12月17日開催

約10名の教職員を前に、3名の看護学科の学生が活動を報告。

3年の柿木守さんと経種一歩さん(ともに島根県立大東高等



学校出身)は「参加者が2名と少数でしたが、2対2の距離の近いコミュニケーションで、高校生が感じている疑問などをしっかり聞き、回答することができた。また、看護の幅広い活躍分野について伝えることができ、島根大学で看護を学ぶことの意義を高めることができた」と発表。さらに3年の板垣沙耶さんは「普段人前で話す機会はなかなかないので、後輩に自分の気持ちを伝えることができて良かった。また、看護に興味のある男子学生がいることを知り、うれしかった」と語りました。

「両キャンパスの学生の発表を受け、教職員からは「大学で成長した姿を高校で見てもらうことが島根大学のPRになる」「よく工夫された資料で大変分かりやすい」など激励やねぎらいの言葉がかけられました。今後の活動が期待されます。

※記載の学年は取材当時のものです。

※「学生プレス研究会」は、誌面の都合により休載となります。

読者の声

「広報しまだい」前号(vol.19)に寄せられた声をお届けします。

島根大学ならではの活動や取り組みなどをぜひ紹介してほしいです。
(大阪府大阪市・Mさん)

各学部の様子をもっと紹介していただけると嬉しいです。
(島根県浜田市・Kさん)



【病棟の概要】
 病室数／21室(うち特別室1室)
 スタッフ体制／医師…3名、看護師…18名、
 薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカー、他

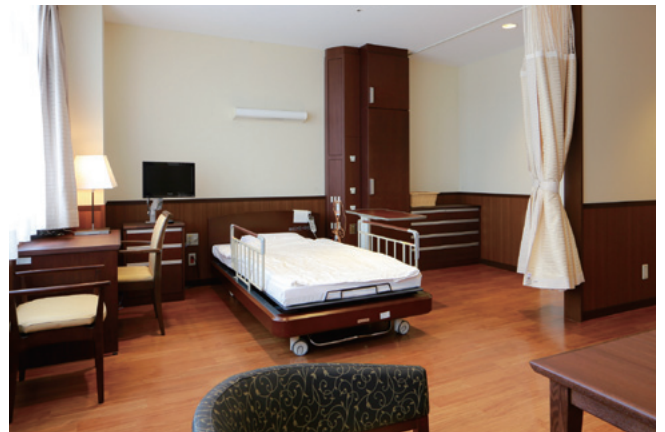
【連絡先】
 平日(9時～17時)／0853-20-2193(地域医療連携センター)
 時間外・休日／0853-20-2615(緩和ケア病棟)

国立大学病院で 全国2番目に開設した緩和ケア病棟

今、求められている 緩和ケアの意義

平成23年6月に、国立大学病院として全国2番目の早さで開設した緩和ケア病棟。それから3年近く、主にがん患者さんとそのご家族の心身の苦痛を和らげ、生活の質を改善することで地域医療に貢献してきました。

WHO(世界保健機関)が定義する緩和ケアとは「生命を脅かす病気による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題・心理社会的問題・スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切に評価



21の病室は全て個室。プライバシーを守ることで気持ちにもゆとりが生まれます。

◀病室には天井内の檜皮(ひわだ)の由来が書かれたプレートが。

して対応を行うことによつて苦痛を予防し和らげること、で、生活の質を改善する取り組みである」とされています。この緩和ケアを専門に提供するのが緩和ケア病棟であり、そこが治療を主眼とした一般の病棟との大きな違いです。





まだまだ認知されていない 緩和ケア

まずはご相談を

医学部医学科緩和ケア講座 教授
中谷 俊彦

緩和ケア病棟が一般の病棟と異なるのは、「延命措置を行わない」「(病棟内での)がんの治療は行わない」「苦痛を伴う検査を減らす」という部分です。もっとも重要なのは、患者さんとそのご家族の心身の苦痛を理解し、その緩和と癒しを提供すること。そのためにはまずコミュニケーションが第一です。積極的にお話を聞き、要望にあわせて各専門家が適切な対応をすることで苦痛を取り除いていきます。

ただし、だからと言って終末期のみの患者さんを対象としているわけではありません。一般病棟や外来でがんの治療中の患者さんに対して苦痛を緩和していくことで、治療に対する前向きな気持ちが生まれてくるという効果もあります。そのためには、診断の初期の段階から積極的に介入していくことも重要だと考えています。もちろん、入院中にご本人の希望があれば在宅に戻ることも、他の病院や病棟に転院することも可能ですし、そのためのサポート体制も整えています。また、病棟だけでなく緩和ケア外来も行っておりますので、疑問があればいつでもご相談をさせていただきたいと考えています。



緩和ケアはチーム医療。医師や看護師だけでなく様々なスタッフが関わります。



体を動かしにくい患者さんでも横になったまま入浴できる介助浴室。

患者さんが穏やかに過ごせる配慮

緩和ケア病棟があるのは、平成23年にオープンした新しい病棟の5階です。病室は全て個室で21室あり、窓は広く開放的。また南側の10室の天井内には、出雲大社大遷宮の際に寄贈いただいた天神社(あまさきのやし)の屋根の檜皮(ひわだ)から出た炭を敷き、調湿に役立っています。光と風を感じられるようにと設けられた南側の広い屋上庭園にはラウンジから出入りできます。その庭園では、学生・院内ボランティアが手入れをして育ててくれている草花が四季を彩ります。

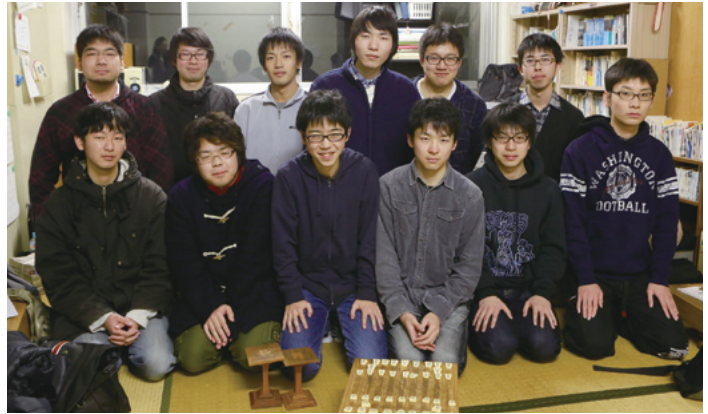


学生ボランティアの手によって整備された屋上庭園の花壇。

としては、緩和ケア担当医師や看護師、その他の専門スタッフがチームを組んで患者さん一人ひとりに対応しています。コンサートや誕生会などのイベントも癒しの一つとして積極的に開催しています。

松江キャンパス

〔将棋部〕



仲間と切磋琢磨しながら、団体戦優勝をめざす

いつ来ても
将棋が指せる環境で
己を鍛え、勝利をめざす

課外活動共用施設3階にある部室を訪ねると、ほぼ毎日のように将棋盤に向かう部員の姿が見られる同部。この「いつ来ても将棋が指せる環境」が個々の実力やチーム力を磨き上げているのでしよう。ここ10年で「中四国学生将棋大会」団体戦での優勝候補に挙がるまでとなりました。

(法文学部2年生)。

そのためには「もっと将棋を指し
たくなるような環境づくりが大切」と部室の整理整頓や連絡の徹底を図るなど、
きめ細やかな配慮で部を運営。「今年こそ、優勝を！」と意気込む部員たちを支援しています。



時間の経過とともに熱気に包まれる部室

出雲キャンパス

〔水泳部〕



目標は違っても、泳ぐのが好きなのはみんな一緒

個々に違う目標を
尊重し合って
高め合うスイマーたち

各大会での記録更新、健康増進や体力づくり、泳ぎをマスターしたいなど部員ごとに違う目標や目的を尊重しつつ、「水泳が好き」という思いをひとつに練習に励んでいます。
冬季のシーズンオフを経て、3月から4月にかけて市内のスイミングスクールで練習を開始。6月末から8月中旬までは出雲キャンパスのプールが練習拠点となります。

に喜びや手応えを感じる貴重なシーズンとなりました。
「今後も助言し合って限りある時間を有効活用し、切磋琢磨していきたいですね」と部長の園田裕隆さん(医学部3年生)。
今年も一人ひとりの力泳に期待できそうです。
(撮影は昨夏)



出雲キャンパス内のプールで黙々と練習に励む



島根大学は、島根スサノオマジックを応援しています！

新指揮官ハンソンHCに一問一答！

島根スサノオマジックの神話第四章もリーグ戦、全52試合の36試合(3月3日現在)を消化し依然、西地区最下位を脱しきれずにいる。しかし、徐々にではあるが2014年1月半ばより就任した、新指揮官レジー・ハンソンHCの戦略「モーションオフェンス」も浸透してきて点の取れるチームに変貌しつつある。

- Q 自身の目指すバスケットボールスタイルは？
A 基本的には、タフでアグレッシブなディフェンス重視のバスケットボールスタイル。
- Q 島根スサノオマジック、どこを見てほしい？
A 40分間通したハードワーク。
- Q 島根県に住んでみて、島根はいかがですか？
A 落ち着ける環境が好きですね。
- Q 最後にファンの皆様に向けて一言。
A bjリーグNo1のプースターの為にチーム一丸で頑張りますので、これからも心強い応援よろしくお願ひします。



2014年4月のホームゲーム

試合日	開始時間	対戦チーム
4/5(土)	19:00	ライジング福岡
4/6(日)	13:00	
@島根県立体育館(浜田市)		
4/19(土)	19:00	滋賀レイクスターズ
4/20(日)	13:00	
@米子産業体育館(米子市)		
4/26(土)	19:00	大阪エヴェッサ
4/27(日)	13:00	
@松江江市総合体育館(松江市)		

島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先
 島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成25年12月~平成26年2月にご寄附いただいた皆様)
 (五十音順・敬称略)

- 法人等からのご寄附 島根大学法文学部同窓会
 九州・沖縄支部
- 個人からのご寄附 石井 勝 市川 善隆 大町 勇太
 川井 洋一 岸本 早代 多田 啓二
 波多野 一徳

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/ ※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

荒れた森林を元気にしよう!
 私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなでを守ろう!

山陰合同銀行

投稿のお願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江江市西川津町1060 島根大学 広報室
 TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019
 E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
 ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生生活協同組合
 〒690-8504 島根県松江江市西川津町1060 ⅴ0852-32-6240
<http://omise.seikyuu.jp/shimane>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「柚子ジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
 ※応募締切/平成26年6月13日必着

印刷テクノロジーで、世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
 松江営業所 〒690-0887 島根県松江江市殿町383 山陰中央ビル7F

編集後記

おかげさまで「広報しまだい」も2005年4月に創刊号を発行し、ようやく20号を迎えました。出来上がりを楽しみに待っていらっしゃる方も多く、私たちとしても作り甲斐があります。

私事で恐縮ですが、我が家の姪もようやく地元で社会人1年生をスタートしました。あのお転婆な子が4月から働き給料をもらうなんて…。子供の成長はほんと早いものですね。親心として、楽しく、がむしゃらに、山あり谷ありも経験しながら大人に成長してくれればと見守ってやろうと思います。

私たちは「広報しまだい」を我が子のように育てています。まだまだお伝えできていない大学情報をどんどん発信し皆さまのお役に立てれば幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。は～るよ來い!

知的好奇心の旺盛なあなたへ

島根大学

市民パスポート会員のご案内



市民パスポート会員とは、
年会費5,000円で
どなたでも入会でき、
以下のサービスを1年間
ご利用いただけます。

島根大学は新しい学びなおしのスタイルとして、
社会人のための市民パスポート会員を募集します。

市民パスポート会員向け講義についての 情報提供と受講

本学が実施する「公開講座」や正規の授業を地域の方に開放する
「公開授業」及び「大学開放事業」に無料で参加できます。

eラーニングなどのインターネットを用いた講義の聴講

本学が実施するWeb講義をインターネットを経由して無料で聴講できます。

広報しまだいの送付

本学が年4回(4月・7月・10月・1月)発行している、
本学の教育、研究及び地域貢献活動についての
情報を提供する「広報しまだい」をお送りします。



附属図書館の利用

- ①会員の方は、会員証の提示により、ご利用できます。
- ②本学が所蔵する図書を5冊(2週間)まで借りることができます。
なお、研究室所蔵の資料、雑誌、AV資料、貴重資料等は貸出できません。

学生市民交流ハウス(松江キャンパス)の利用

本学の学生と地域の方々とのコミュニケーション及び交流する場として、
松江キャンパス内「学生市民交流ハウス」を利用できます。

大学施設の利用

本学の施設(教室・体育館・野球場・テニスコート・陸上競技場・
サッカー場・プール等)を半額料金で利用することができます。
ただし、会員が主催する催事で、本学が承認したものに限りです。

各種催事(国際交流、学生との交流など)への参加

会員を対象とした国際交流や学生との交流などの催事に無料
(ただし、実費等が必要なものがあります)で参加できます。



【お問い合わせ先】

島根大学総務部総務課 市民パスポート会員担当

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL:0852-32-6603

E-mail: webinfo@office.shimane-u.ac.jp

詳細は島根大学ホームページの
バナーからご覧ください。

<http://www.shimane-u.ac.jp/>

島大

検索